

湯川だより



第25号 2016/2/25
発行：御代田町 町民課
【佐久市・北佐久郡環境施設組合】

～安定したごみ処理の実現と新クリーンセンター整備に向けて～

環境影響評価「施工状況等報告書」を県に提出



▲環境保全措置「オニヒョウタンボクの播種・育苗」

また、11月には、今年度追加で確認された希少種「ギンラン」の個体試験移植を実施しました。ギンランは、土壌中の共生菌を可能な限り広範囲にわたり確保し、個体の生育環境をできる限り変化させないように移植することが適当であるとされています。

しかし、全国的に見ても移植手法が確立されておらず、専門コンサルタント及び造園土木業者の深い識見と経験を基に、より効果的な移植計画を考案し、植物の専門家からのヒアリングを行なったうえで移植作業を実施しました。

佐久市・北佐久郡環境施設組合では、平成27年10月から12月までの新クリーンセンター整備事業に係る進捗状況及び、環境影響評価書において定められている環境保全措置の実施状況を取りまとめ、長野県環境部に報告しました。

10月から12月に実施した環境保全措置は、動植物に係るもので、昨年、環境保全措置として希少木「オニヒョウタンボク」の採取した種子を蒔いたところ、数個体の実生が確認され、引き続き生育管理を実施しています。



▲環境保全措置「ギンランの個体試験移植」

希少動物(昆虫)では、ベニモンマダラの食草である「クサフジ」の群落を生息基盤として近傍に移植する予定でしたが現地の表土一帯に法面保護用の金属ネットが敷設されていることが判明しました。代替案として現状のクサフジ群落から種子を採取、移植先にて播種し、クサフジ群落の復元を環境保全措置として実施しました。春季には、現地にてベニモンマダラの終令幼虫の移植も検討しています。



▲環境保全措置「クサフジの種子採取(播種・育苗)」

このほか、希少動物(陸産貝類)の「クリロベッコウ」が確認された一帯の表土を集め、工事による影響が回避できる生育に適した場所へ生息基盤ごと移植する環境保全措置が実施されました。

植物の個体移植あるいは、動物の生息基盤移植は、季節による適期があり、より効果が期待できる時季、そして方法を選定し、環境保全措置を実施しています。今後も、発芽した実生の生育管理や移植後の経過観察などをきめ細かく実施してまいります。



▲環境保全措置「クリロベッコウの生息基盤移植」

佐久市・北佐久郡環境施設組合議会 第1回定例会が開会



▲平成28年 佐久市・北佐久郡環境施設組合議会 第1回定例会(佐久広域連合消防本部・佐久消防署講堂)

2月19日、佐久市・北佐久郡環境施設組合議会の平成28年第1回定例会が佐久消防署の講堂で開会されました。第1回定例会に提出された議案は、平成27年度組合会計補正予算案、平成28年度組合会計当初予算案、及び佐久市・北佐久郡環境施設組合情報公開条例の一部を改正する条例案など6件が上程され、全会一致により可決されました。



▲柳田組合長による議会招集挨拶の様子

NEXCO東日本「雪道体験ドライブレッスン」開催



▲雪道体験ドライブレッスン

1月30日、31日、佐久スキーガーデンパラダの協力によりNEXCO東日本(ネクスコ東日本高速道路)関東支社佐久管理事務所の「雪道体験ドライブレッスン」が佐久市平根地区で物件移転作業が進む新クリーンセンター建設予定地において開催されました。

当日は雪道運転技術向上のため、特設コースでプロドライバーの講師が同乗のもと、雪道の過信は禁物、車間距離や早めのブレーキの意識など、雪道走行時の注意ポイントをレクチャーするドライブレッスンを無料で体験できました。

また、町の観光キャラクター「みよたん」を始めとする上信越自動車道沿線のご当地マスコットキャラクターやNEXCO東日本冬道PRオリジナルキャラクター「マンモシ博士」、マナー向上キャンペーンキャラクター「マナーティ」も参加しました。



▲「みよたん」も一緒に記念撮影

ちよっとそこまで♪

わら馬、石仏、関伽流山(アカルサン)まで続く穴、翠潭(すいたん)坊…

1月31日、テレビで長野県内のニュースを見ていると、背丈より大きなわら馬を子供らが引く「小田井の道祖神まつり」が放映されていました。

平成19年3月、町教育委員会で発行した「御代田の美と伝統」にかつて小田井には初午にあわせてわら馬を作り、モチを入れた小俵をつけた馬を幼児が引き、稲の豊穡を祈って道祖神にお参りをする風習があり、これを昭和46年に復活させたのが、小田井の道祖神まつりであると記載されていました。

わら馬のことを考えていたら、馬瀬口の長泉寺境内にある石造の馬をふと思い出し、立春のころに見に行ってみました。

「御代田の美と伝統」によると観音堂の天井に木の柵の中に馬が戯れている絵があり、現在の馬瀬口の由来となる柵口は牧場の柵を表わすことから、あえて堂入り口に描かれたものとみられるそうです。長泉寺の御本尊は馬頭観音菩薩で佐久三十三番観音札所巡りの第五番札所、また佐久郡八十八ヶ所札所巡りの第十三番札所にもなっています。

昨年11月、佐久三十三番観音の第七番札所となる佐久市香坂西地の関伽流山明泉寺を小六の娘と巡り、本堂の境内から山腹の観音堂までの参道を一丁目ごとにある石碑を写真撮影しながら



▲長泉寺観音堂、石造の馬(馬瀬口)

約1時間かけて登りました。観音堂に到着後、御本尊の千手観音菩薩を参拝し、断崖絶壁や観音穴にある百体観音をお参りしていると近隣の村々から寄進されたこの観音の一部が明治時代に旧小沼村塩野の有賀玉吉という高遠系石工、最後の名工により彫られた石像であることがわかり、その当時の湯川をはさんだ地域間の交流を感じることができました。



2 / 2 ▲関伽流山 観音穴(佐久市香坂)

また、昭和45年4月、佐久臼田の詩人三石勝五郎が著した「信濃関伽流山」、昭和55年10月、町公民館で発行した「御代田物語」の二つの本に、豊昇久能入の高い岩の根元に高さ1間余り熊の穴と呼ばれる穴があり4、5間入った所で二股に分かれこの穴に鶏を放したところ、暗い闇の穴から急に明るい外へ出て鶏が喜んでコケコイヨーと鳴いて観音穴から出てきたことから、そこを「アカルサン」と命名したと云う関伽流山まで続く穴の伝説が掲載され、当時の山々を越えた地域間の交流も感じました。

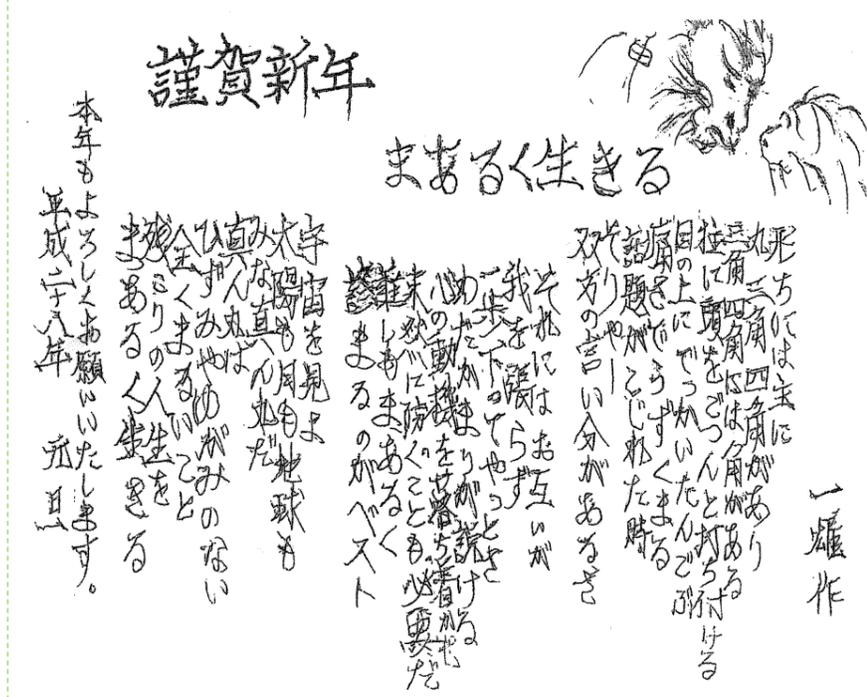
以前、佐久郡八十八ヶ所第二十三番札所で御本尊を観世音菩薩とする面替の天狗山観音寺跡を娘と巡った時、お堂に田口翠潭と云う江戸時代末期の画僧が描いた掛軸が飾られていたとの話を思い出し、常盤御前が孤児の牛若丸を抱き旅立つ姿を「常盤孤(ときわこ)を抱く」として描いた翠潭の画が今も地元に残され、地域文化を守り次世代に伝えていく気概を感じました。

地域文化から何かを感じるにより新たな地域づくりを生み出す契機となり、その取り組みの積み重ねが地域活性化や地域間交流、そして地域振興につながっていくものと思います。(む)



▲田口翠潭画「常盤孤を抱く」

編集後記



がベスト」とありますが、「角ばらず丸みをもって生きていきなさい。」と我々の背中をポンと押していただいたようにも思い2016年の幕開けにあたり、新クリーンセンター整備に向けて、決意を新たにいたしました。

新クリーンセンター整備事業の関係でお世話になっているかたから組合に年賀状をいただきました。

そのかたは、随分と前に利き腕の右手が不自由になられてしまい、字を書く際はもちろんのこと、左手で生活の全てをこなしています。

もともと書道が得意であったせいも、左手でお書きになれるご自身のお名前やご住所、一文字に懸ける筆勢は、圧倒されるほどの勢いがあります。

また、詩や絵の作成にも精力的で、その力作は新聞に取り上げられたことがあるほどのご活躍とお聞きしています。

書かれた言葉や詩、絵から伝わるご本人の人となりや人生観、生き方は、心に響くものがありました。

詩の一節に、「誰しもまあるく修まるの

【発行】 御代田町役場 町民課 環境衛生係
御代田町大字御代田 2464 番地 2 電話：0267-32-3111 (内線 47)
【組合問合せ先】 佐久市・北佐久郡環境施設組合 事務局
佐久市中込 3056 番地(佐久市役所内) 電話：0267-62-2916